

# 仙台まちづくり若者ラボ 2025

## 参加者アンケート

令和 8 年 2 月

市民局 市民協働推進課

## アンケートの概要

「仙台まちづくり若者ラボ2025」参加者に対するアンケートを実施し、令和7年度事業の振り返りと来年度に向けた改善点を検討するもの。

■回答期間：令和8年1月31日(土)アクション報告会～2月11日(水)17時

■回答数：20人 ※メンター2人含む

(【参考】事業参加者数:39人/メンター:6人)

■参加者属性：年齢 18歳から34歳 (10代:7人 20代:27人 30代:5人)

職業 学生:23人 社会人:16人

■回答方法：せんだいオンライン申請サービス

■備考

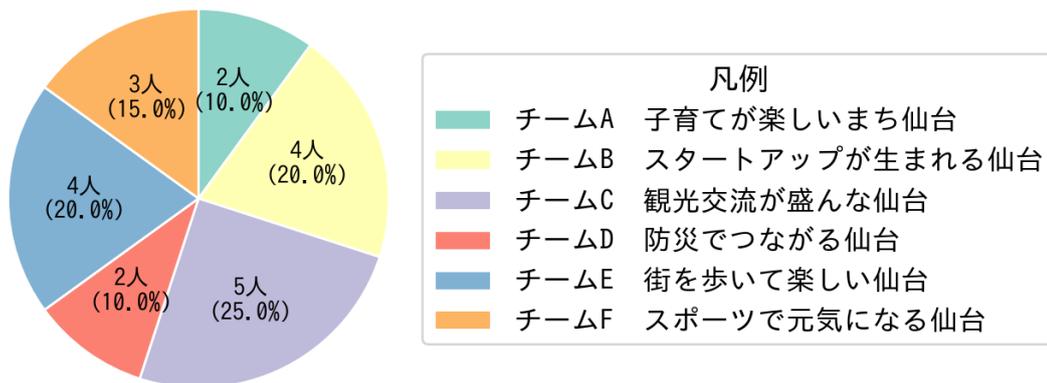
- 設問の回答方法が自由記述の場合、基本的に原文ママ掲載。ただし、「特になし」という回答については掲載していない。

# アンケートの設問 及び 回答

## お名前

※掲載しません

## Q1 所属しているチームを選択してください。 ※必須

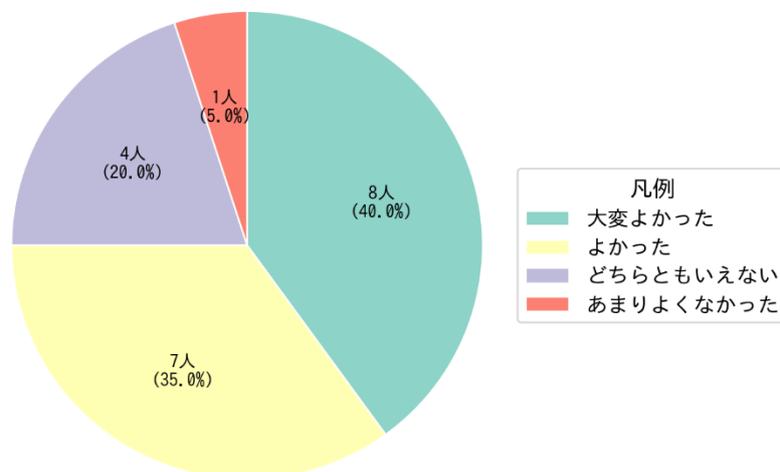


## Q2 若者ラボ全体に対する参加満足度を教えてください。 ※必須

- 回答者のうち「大変よかった」と回答した人が8人（40%）、「よかった」と回答した人が7人（35%）であり、若者ラボ全体に対する参加満足度は高いと言える。

【参考】チームごとの「大変よかった」と回答した人数

チームA 2件/2件、チームB 2件/4件、チームC 2件/5件、  
チームD 0件/2件、チームE 1件/4件、チームF 1件/3件



### Q3 前設問の回答について、理由を教えてください。 ※必須

#### 「大変良かった」の理由

(学生)

- 半年間の活動を通して、仙台の課題を見つけ、その課題に対して企画立案から実行まで一貫して取り組むことができたため。
- 普段接する機会のない社会人の方や他校の学生の方と交流を深めることができたから。
- 年齢関係なく一つの目標に向けて活動することでそれぞれの考えや価値観などを知る機会になり、活動も普段ならできないようなことが沢山あったからです。
- まちづくりについて、行政や市民団体の方が行うもので、人ごとだと思っていたが、自分でも行動に移せばできるということを知ることができたから。また、この活動を通してたくさんの人と出会えたから。
- 地元ではない仙台市の課題や現状を、自分事として捉え、より身近に感じることができるようになったから。
- まちづくりと考えると大きなことのように思うが、自分達でも小さなことからできることがあると気づくことができた。
- 今大学生なのですが、社会人の方と交流することができた。

(社会人)

- 多様なバックグラウンドを持つ方々と「仙台の未来」について対等に議論できたことが非常に刺激的でした。リアルな視点から仙台の街を見つめ直すことができ、今後の自身の事業にとっても、期待以上の学びと繋がりが得られました。

#### 「良かった」の理由

(学生)

- チームで協力して課題に取り組めたため。
- 観光というテーマを深く考えるきっかけになり、仙台の観光交流をどのようにすれば関係人口が増えるかなど考えることができたから。
- 仙台の防災への取り組みについて自分自身知識がなかったが、今回の活動を通じて学生 SBL にもなれ、たくさんの防災知識がついた。また、メンバーとも楽しく活動を続けられ大変満足しているが、もっと良いアクションプランが実施できたのではないかと思ったから。

(社会人)

- 仙台の知らないスポットを知ることができた。母校へ行くきっかけになった。
- 「スポーツ」というわかりやすいテーマだったからか、これまでに参加者・メンターとして参加したどのチームよりも参加意欲や盛り上がりがあったと思います。つい自分たちの面白いものや遊びたい方向

に向かってしまいがちですが、「何のために行うのか」「課題や目的は何か」ということを投げかけることで、アクションもより本質的な活動になっていたと思います。（最終日の参加者数が少なくなってしまいましたが、報告会の日程が提示された時から予定が合わずでした）

- 普段関わることのない人と関わるきっかけになったり、知らなかったまちづくりの仕組みを知ったりでき、有意義な時間になったため。
- 新しい発見や出会いが出来た。

### 「どちらともいえない」の理由

（学生）

- 所属する学生団体と比べてチームの動きとしてプロセスが悪かったり、進捗が悪かったから。

（社会人）

- 若者ラボ自体の取り組みは非常によく、このイベントをきっかけに見えてくる仙台や他のグループの調査結果、アクションに夢があるので参加して良かったと思っています。具体的な課題発見、解決につながるような調査や成果を出せなかったような気がしているのが一番強いところです。メンバーの方々によってモチベーションにばらつきがあり、頑張る人にアクションが集中したり、オンライン MTG での発言も非常に少なかったため、グループのハンドリングがなかなか難しかった。やったこと自体は楽しかったのですが…イベント自体に問題はないと思うので、参加者とハンドリングの問題なのかもしれませんね。
- 序盤は、非常にワクワクしていたが回を重ねるにつれて、自分含めチームのモチベーションが上がらないまま終わったのは残念だった。最終的に「このアクションが次につながる」という実感を持ち切れなかった部分もあり、満足・不満のどちらかに振り切ることができなかったためです。
- やる気の度にばらつきがありました。

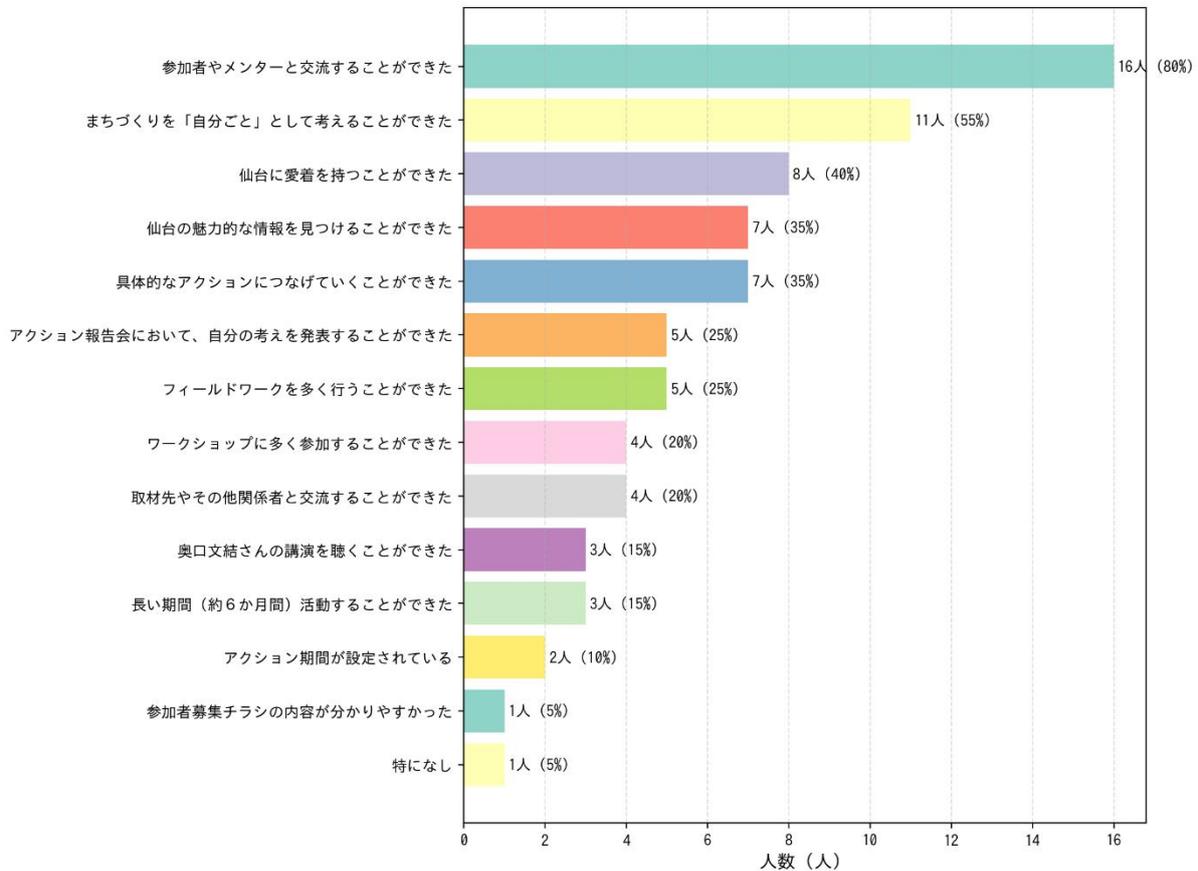
### 「あまりよくなかった」の理由

（学生）

- チームの活動に満足感を持つことができなかったため。また、若者ラボの活動内容が初期の頃と比べアクションに偏ってきているという話を聞き、短い期間内で仕上げるのが難しいと感じた。メンバーの興味よりも、活動頻度が合うことをチーム決めの基準にした方が良いように感じた。

#### Q4 若者ラボの良かった点をお教えてください。(複数選択可) ※必須

- 「若者ラボの良かった点」として、回答者の半数以上が「参加者やメンターと交流することができた」、「まちづくりを「自分ごと」として考えることができた」を挙げられている。



#### Q5 前設問の回答について、補足等があればご記入ください。

(学生)

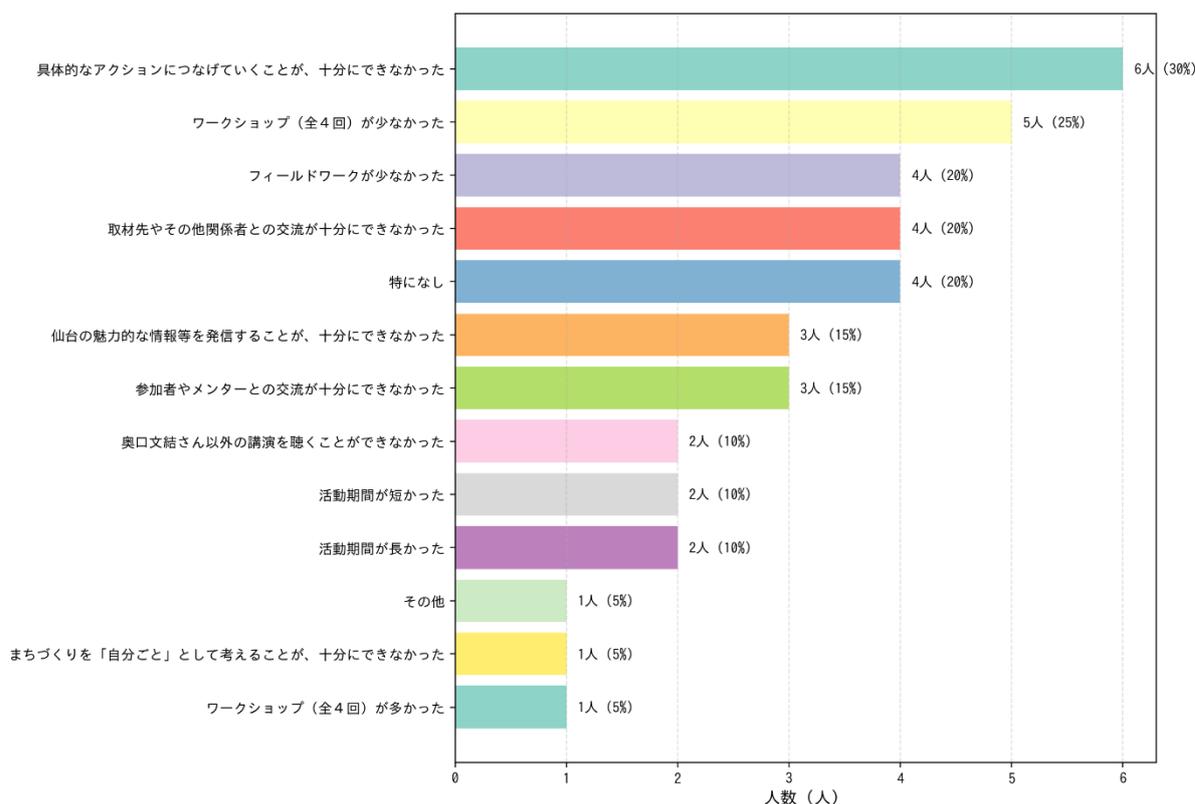
- 仙台市外在住ですが、仙台についてたくさん知る機会となり、有意義な時間でした。

(社会人)

- 特に、異なる背景を持つ参加者同士で意見交換できた点は大きな収穫でした。また、仙台というまちを「使う側」「歩く側」の視点で捉え直すきっかけになったことも良かったです。大学生は普段関わらないので面白いと思った。
- 約6か月間という長期にわたる活動だったからこそ、単なるアイデア出しに留まらず、参加者同士の深い信頼関係を築けたと感じています。メンターの方や、取材先でお会いした地域関係者の皆様との交流を通じて、仙台が持つ「挑戦を後押しする土壌」を再確認することができました。このラボを通じて芽生えた「仙台をより良くしたい」という当事者意識を、今後の自身の事業や地域活動にも繋げていきたいと考えています。

## Q6 若者ラボの良くなかった点を教えてください。(複数選択可) ※必須

- 「若者ラボの良かった点」に対する回答の選択数と比較すると、「若者ラボの良くなかった点」についての回答の選択数は少ない。
- 「若者ラボの良くなかった点」としては、「具体的なアクションにつなげていくことが、十分にできなかった」、「ワークショップやフィールドワークが少なかった」、「取材先やその他関係者との交流が十分にできなかった」などが回答されている。



### 「その他」の回答内容

- 参加出来無い時間があった

## Q7 前設問の回答について、補足等があればご記入ください。

(学生)

- ワークショップは、他のグループの進捗と比較する点においては重要に感じたが、各チーム毎の活動は、もっと敷居の低い方が参加者が集まる可能性があり、あまり活用できていないように思えた。
- メンバーとは仲良くできたが、他のグループとの交流時間が少なかったのが非常に残念でした。フィールドワークで今まで知らなかった情報をたくさん知ることができたが、それをうまくみんなに伝える (発信する) ことができなかった。

(社会人)

- 活動期間が長い分、途中で方向性に迷ったり、アクションの着地点が見えづらくなる場面がありました。中間地点での整理や、次の一步を具体化するためのサポートがもう少しあると、より動きやすかったと感じます。それかもう少し関心度の高いテーマ設定にするなどがあると良かったのかもしれない。
- プログラムの内容自体は非常に満足していますが、グループワークにおいて参加者同士の予定を合わせることに苦労する場面がありました。多様な立場の人が集まるからこそ、個別の調整が難しくなるのは避けられないことだと実感しています。
- もし可能であれば、あらかじめ「活動日」として強制的に集まる日をより多く、かつ固定的に設定していただくと、議論の密度がさらに高まり、よりスムーズにプロジェクトを進められたのではないかと感じました。

Q8 若者ラボでは、事業の周知広報のチラシなどを配架しているほか、当課 SNS「Team マチカツ！【仙台市】(Instagram 等)」なども活用して情報発信を行っています。また、当課と関係のある大学の先生方に学生への周知をお願いするなど個別のお声がけをしています。より学生や若手社会人などの若い世代の方々の目に触れる効果的な広報の手法にアイデアがあれば教えてください。

(学生)

- 大学にポスターを掲示する
- 就活イベント（合同企業説明会等）での広報
- 参加者への拡散依頼が効果的だと考えます。
- 大学生向けであれば、もう少し大学広報に募集の掲載依頼をしたほうが良いと思いました。
- 大学構内にポスターを設置する。

(社会人)

- 学生にとっても若手社会人にとっても、そういった属性の人と交流することは求めていると思いますし、価値が高いと思います。例えば学生にとって仙台ではたらく若手社会人とのつながりは貴重ですし、30歳前後の社会人にとって学生との交流は減少しているので若い感性を知る貴重な機会。そういった属性の方々と一緒にプロジェクトを進められる、という点を強調できて良い気がします。また公務員の方も多く関わっているので、公務員志望の学生にとっても行政がどういう仕事をされているのかを多面的に知る機会になっていると思います。そういう意味では学生に対しては「キャリアサポートセンター」や「学生支援課」などの協力を仰いでも良いかもしれません。社会人に対しては研修の一環として人事担当者などに打診するのはどうでしょうか。（手島さんも東北人事リデザに参加されたと聞きましたので、そちらでの広報なども良い機会かと）

- 「参加者の声」のショート動画活用：実際に応募を迷っている層（特に学生）にとっては、活動の雰囲気可視化されていることが重要です。Instagram リールやTikTok 等で、過去の参加者が「なぜ参加したか」「何を得たか」を等身大で語る 15～30 秒程度の動画を発信すると、より親近感が湧きやすいです。
- Instagram の広告機能などでターゲットを絞って広報をかけると関心がある人へ情報が行くかと思いません。

**Q9 若者ラボに参加申込を行う前に、不安に思ったことや、事前にこういう情報を知っていたら良かったと思うことがあれば教えてください。**

(学生)

- 他のメンバーと上手く協力できるかが、不安でした。
- どのような内容を行うのかわからなかった（何をするかを自分たちで考えて決めることをもう少し強調しても良いのでは）。また、去年はどの世代が何人参加したかを書くといいと思った（大1〇人、社会人〇人など）。

(社会人)

- 活動にどれくらいの時間的・心理的なコミットが求められるのかが、もう少し具体的に分かると安心できたと思います。忙しい時期との両立イメージが事前に持てる情報があると良いと感じました。
- どのくらいの頻度で活動するのかについて、過年度の事例などとともに知りたかったです。どのくらいの時間活動に費やすことになるのかのイメージが事前にわかると良かったです。

**Q10 実際に若者ラボに参加した中で、負担や不安に感じたことがありましたら、どのようなことか教えてください。**

(学生)

- LINE でのコミュニケーションが図れなかったこと、集まる際に居住地などの事情を考慮されていないことが負担でした。
- メンバーの活動量の差。できてない人が悪いということではなく、途中からなかなか予定が合わなくなってきたり、仕事の都合上で参加できない日々が続いているメンバーがいてかわいそう?に思えました。

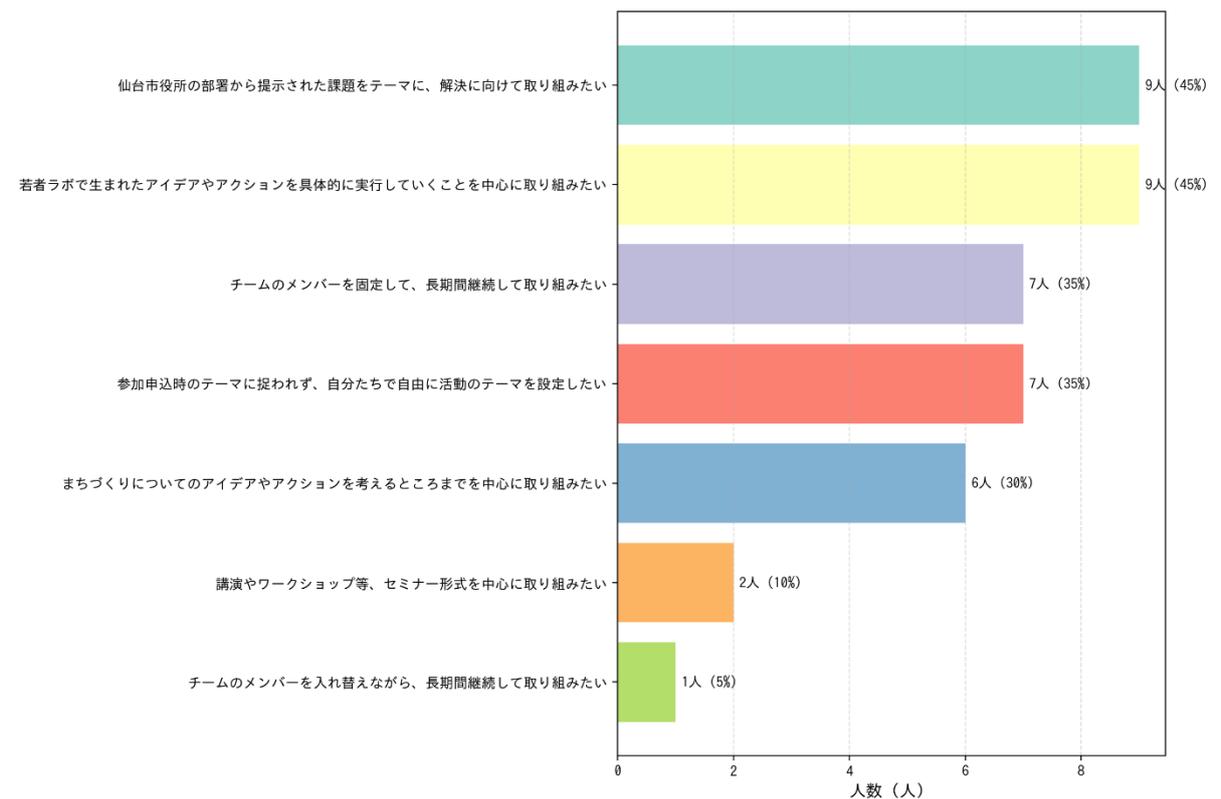
(社会人)

- 今回は役割分担を行って、できるだけそれぞれの担当を持って行うことを意図しましたが、やはりリーダー頼りになってしまうところがあり、負荷が大きかったと思います。あんまりかっちりやるのもどうかと思いますが、基本役割担当を決めて作業実施してもらおうとともに、全体で集まる会の時には「役割ごと」にテーブルへ分かれて仕事の振り返りや愚痴共有、ノウハウ共有などができても良いのではない

かと思いました。

- 個人の生活リズムや仕事状況によっては、活動ペースの調整が難しいと感じる場面がありました。強制感はないものの、「どこまでやるのが理想なのか」の基準が少し分かりづらかったです。
- メンバーとコミュニケーションをとれていたため、特に不安はありませんでした。

**Q11 あなたが来年度の若者ラボへの参加を検討する場合は、どのようなプログラムだと参加したいと思うか、ご意見・ご感想を教えてください。（複数選択可） ※必須**



**Q12 前設問の回答について、補足等があればご記入ください。**

(学生)

- 参加頻度が合う人たちと、長い期間取り組むことが可能だったら良いと思います。
- フィールドワークでたくさんのことを学べるが、それを 1 回のアクションだけで終わらせるのが勿体無いと感じた (アクションをどう行うかはメンターのやる気次第が関係していると感じた)。ただイベントやりましたで終わってしまってるので、どういう成果効果が生まれたかまでできると自身の成長にもつながるしやりがいも感じると思った。

(社会人)

- 若者ラボの枠組みで出なくてもいいかもしれないが、仙台市役所から提示される課題をテーマに解決に向けて取り組むことは非常に面白そうだと思う。若者ラボのケースだと普及啓発系のものが多く、結果があまり見えなそうところがモヤモヤするんだと思う。提示してある方が取り組む側は非常にやりやすいと思う。
- 市役所の各部署が実際に抱えているリアルな課題をテーマに設定していただくことで、より緊張感と責任感を持った活動ができると感じ、選択しました。自由なアイデア出しも魅力的ですが、実際の行政課題に対して、私たちのような多世代の混成チームが「外側からの視点」で解決案をぶつけるプロセスは、参加者にとっても街にとっても非常に価値のある経験になると確信しています。

Q13 若者ラボに参加してきた中で、楽しかったことがあれば、どのようなことが「楽しい」と感じましたか。

(学生)

- 年代の異なる多様なメンバーと一緒に、ワークショップやフィールドワークを通して多角的に考えを深めることができたこと。
- アクション中に、たくさんの住民の方とお話しできたこと。
- 仙台に関する知識や理解、愛着が深まった。
- 年代や違うメンバー間で楽しくできた！たくさんの仙台市の防災講座に参加することができた！

(社会人)

- 上記のグループとしての動き、役割が機能しているかを見ながら調整し、なんとか走り切ることができた点は良かったと思うと同時に楽しかったと思います。
- 普段の生活では関わらない人たちと、同じテーマについて話したり、一緒に街を歩いたりできたことが楽しかったです。特に、大学生と社会人がフラットに意見を出し合う時間は新鮮で、自分では当たり前だと思っていた視点が全然違って見えるのが面白かったです。「仙台をどうするか」という大きな話をしつつも、日常の延長線で雑談っぽく話せた時間が印象に残っています。
- やはり、チームメンバーと試行錯誤しながら一つのアクションを作り上げたプロセスそのものが一番の思い出です。フィールドワークやワークショップを通じて、普段の生活では出会えないような志の高い仲間と出会い、世代や立場を超えて笑い合いながら真剣に議論できた時間は、私にとって何物にも代えがたい貴重な経験となりました。
- メンバーと定期的に集まり、活動や他愛のない話をすることで交流を深めることができました。

**Q14** 参加申込時に、みなさんから「まちづくり」のイメージについて伺いました。若者ラボに参加する前と参加した後で「まちづくり」のイメージについて、自分の考えが変わったことなどがあれば教えてください。

■参加者の“まちづくり”のイメージに対する心理的変容の確認

下記の2つの時点において“まちづくり”のイメージについて回答いただき、若者ラボに参加する前と後で、同一の参加者の回答を比較することで、参加者の心理的変容について確認した。

①参加申込時の設問

「まちづくり」について、どのようなイメージをお持ちですか？」 ※必須

②アクション報告会開催後の参加者アンケートの設問

上記のとおり

(学生)

①参加申込時	②参加者アンケート
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域住民と地域外の人々が互いに協力し合い、意見を交換しながら進めていく活動。活動の中では、地域の自然環境や文化などの特性を最大限に活かしつつ、持続可能で魅力的なまちを創造する。また、これによって地域全体の活性化を促進し、地域住民の生活の質の向上やコミュニティのつながりの強化につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動を通して、まちづくりとは住んでいる人が自分のまちの課題に関心を持ち、主体的に関わることが重要であると考えようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本来は住民が意見を出してやるべきなのに、行政や専門家が主体となってまちづくりを行っているイメージがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大それたことではなく、些細なことでも行動に移すことが、まちづくりになると感じた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 難しいことではあるが、若者が主導となって行っていかなければならないことだと思う。特に、仙台市は広く、発展しているエリアとそうではないエリアが極端に分かれていると感じる。まだまだ若者が参画しにくい部分が多いが、今回のような企画は貴重であり、度々行って欲しいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 政策に関して軽々しく不満を言うのは傲慢だと感じるくらいに難しさを感じた。また、小さなことでも市民が自発的に行えるのだということも学んだ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 私にとって「まちづくり」とは、地域に暮らす一人ひとりが“自分ごと”として関わることで、安心して暮らし、互いに支え合える環境を共に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災とまちづくりは結びつかないと思っていたが、防災への取り組みは立派なまちづくりだと思った。防災とまちづくりとは、災害が発生</li> </ul>

<p>つくっていくことだと考えています。単なる建物や制度を整えることだけでなく、子ども・高齢者・外国人など、多様な立場の人が互いに理解し合い、つながりを実感できる「人のつながりを育むプロセス」がまちづくりだと思っています。私は、学習支援や情報リテラシー教室などを通して、地域の子どもたちと接する機会が多くあります。そうした活動の中で、「誰もが安心して過ごせる場」があることで、子どもたちの表情が変わり、大人たちも自然に会話を交わすようになる場面を目にしてきました。このような日常の中の小さな変化の積み重ねが、まちの魅力や信頼関係を育てていくのだと感じています。</p>	<p>した際の被害を減らし、安全に暮らせる地域をつくるために、地域の環境や人のつながりを考えながらまちを整えていく取り組みだと思う。具体的には、地震や洪水などの災害に備えて避難場所や避難経路を整備したり、危険な場所を減らす都市計画を行ったりする。また、地域住民同士の助け合いや防災訓練など、コミュニティの力を高めることも重要だと思う。防災は行政だけでなく、住民・学校・企業などが協力して取り組むことで、より強い地域づくりにつながると思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 街をさらに魅力的にすることができるというイメージを持っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小さなことからでもできることがあると気づけた。また、自分ごととしてとらえることが重要だと気づけた。</li> </ul>

(社会人)

①参加申込時	②参加者アンケート
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティア的な活動でみんなでワイワイするようなイメージ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 参加前は、「まちづくり=何か特別なことをする人たちが取り組むもの」というイメージが強かったです。参加してみて、街を歩いたり、気になったことを話したりすること自体が、まちづくりの一部なんだと感じるようになりました。大きな成果を出すことだけではなく、日常の中で感じた違和感や面白さから始まるものも、立派なまちづくりなんだと思えるようになったのは変化だと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● まちづくりは、暮らす人それぞれが「自分でできること」を持ち寄って、少しずつ生活環境を整えていくものだと思っています。地域の清掃や小さな交流イベント、情報共有の仕組みづく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 以前は「行政や専門家が行うもの」というイメージがどこかにありましたが、参加後は「自分たちのような市民が、立場を超えて繋がることで動き出すもの」へと変化しました。特に、多</li> </ul>

<p>りなど、背伸びしない行動の積み重ねが街の居心地を良くし、結果として人のつながりも深まる、そんな等身大のイメージを持っています。</p>	<p>様なバックグラウンドを持つメンバーと対話を重ねる中で、小さなアクションの積み重ねが街の景色を変えていく可能性を実感できたことが、大きな意識の変化に繋がりました。</p>
<p>● 政治家やまちづくり活動に情熱を持っている人が中心となり、まちづくり活動にあまり関心のない住民も巻き込みながら行っているイメージがあります。私がまちづくり活動の経験があるため身近に感じますが、身近に感じない人も多いように感じます。</p>	<p>● まちづくりは特定の人がやっていたらいいわけではなく、多様な人が関わるのが重要であることを学びました。活動で多様な考えを持った人とふれあうことができました。その経験から、多様な人がまちづくりに関わることで片寄った考えでまちがつけられることが防がれ、皆にとってよいまちづくりが行われるのだと感じました。</p>

Q15 今年度の若者ラボでは6つのテーマ（Q1に掲載）をもとに活動しています。来年度も活動テーマを事前に設定する場合に、興味・関心を持って取り組めるテーマとしてあったらいいなと思うものがあれば教えてください。

- 政治
- 幸せ
- ゲーム・e-sports
- 防災や子育てのようにあまりにも社会課題から入りすぎるとワクワクしないと思う。
- 自転車
- 仙台名物
- コミュニティ
- アウトドア
- 若者が政治にどうやって興味をもつのか。
- 若者の一次情報から紐解く、仙台を選びたくなる街づくり～首都圏流出を『当事者の視点』で解決する～
- 国際交流
- 私が振り分けられた「スタートアップ」はテーマが他のものよりも大雑把すぎて活動の方向性を定めるのにかなり苦労しました。次年度も同様テーマを行うなら、もうすこし具体的なテーマ提供をいただきたいです。
- 公共交通

Q17 来年度の若者ラボを開催するにあたり、若者ラボに参加された先輩として、初めて若者ラボに参加しようか迷っている方の背中を押す応援メッセージをお願いします。 ※必須

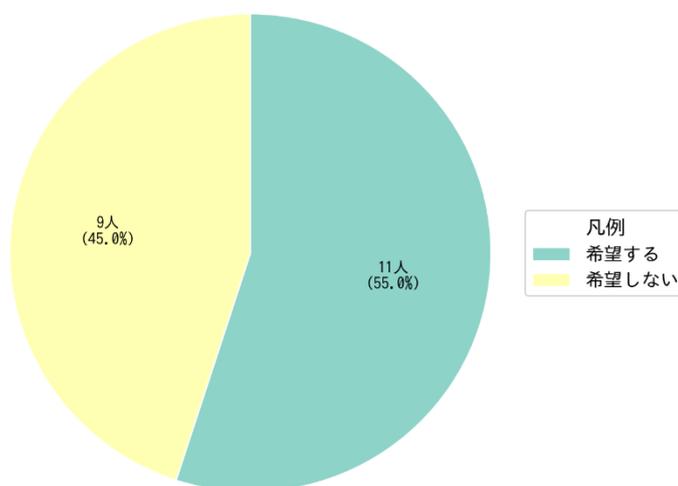
(学生)

- 実際に参加してみて、この活動では提案をアクションまでつなげて形にできる点が魅力だと感じました。また、多様な人が集まる中で一緒に取り組むことで、普段は得られないような貴重な経験をすることができます。少しでも興味がある方は、ぜひ参加してみてください。
- 意識高めの方が参加するものではないため、本当に何も行動していない人、これからアクティブになるための第一歩として相応しい場だと思う
- このまちづくりフィールドワークでしか味わえない体験があると思うので、迷っている方はぜひご参加ください！
- 仙台を新しい視点で捉える良い機会になると思います。
- 申し込むには勇気がいると思いますが、みなさん暖かく迎えてくれますし、たくさんの人と交流することができます。また、チームで活動するので 1 人では行動に移せなかったことを実行するチャンスです！少しでも興味があったら参加してみませんか！
- 初めは不安に思うかもしれませんがぜひ一歩踏み出してみてください。その気持ちが大切です。
- 仙台のまちはどのようなまちで、課題や魅力を気づくことができるきっかけになります。自分の意見を出し、メンバーの意見を聞くことで違う角度からの意見を知ることができます。まちづくりは大きいことを短期間ですることではなく、仙台のことを考え、自分たちにもできることをコツコツとすることだと思います。その行動をできるきっかけになるので、ぜひご参加ください！
- 活動期間に積極的に参加できる人に向いていると思います。責任を持って取り組めるならば、きっと今後の人生を豊かにできる時間になると思います。
- 若者ラボでは、自分が「やってみたい」と思ったことに挑戦できる環境があります。わからないことや不安なことがあっても、チームには必ずメンターがいて、相談しながら進めることができるので安心です。活動を通して新しい視点や考え方に触れることができ、自分自身の成長を実感できる場だと思います。また、年代や立場の異なる人たちと関わることで、普段の生活では得られない刺激や学びもたくさんあります。少しでも興味があるなら、ぜひ一歩踏み出してみてください。きっと新しい出会いや経験が待っています。
- いろいろな迷いが僕もありました！けど、始めてみるとメンターさんなど、グループの方がとても頼もしく、楽しく活動することができました！ぜひチャレンジしてみてください！
- 参加することで自分の知らない世界に出会うことができます。この経験は非常に有意義なものになるとおもいます。やらずに後悔するのはもったいないです。
- 行動することが大切！

## (社会人)

- 学校や職場では出会うことができない仲間に出会えます。
- さまざまな大学、企業ではたらく人との出会い、そして地域で活動する人々との出会いがあります。普段の大学生活、社会人生活では得られない広がりがあるプログラムです。「何をした」ということ以上に、そういった人々に「出会い、話した」という経験が人生の幅を広げてくれると思います。
- 普段生活している仙台がどんな街なのか、今見えている視点とは違った角度から見ることができます。この経験が就職活動の軸になったり、今後の人生において参加しなかったら気づけなかったこと、何かのきっかけになりますよ！
- 「まちづくり」と聞くと難しそうに感じるかもしれませんが、若者ラボは日常の延長線から考えられる場だと思います。完璧な答えを持っていなくても大丈夫で、考えながら動いてみたい人には良いきっかけになると思います。
- 仙台の街を「もっと面白くしたい」という想いが少しでもあるなら、迷わず飛び込んでみてください！ここには、普段の生活では出会えない多様な仲間と、あなたの視点を待っている場所があります。「自分に何ができるか」ではなく、ここで出会う人たちと「何を面白がりたいか」を大切に活動すれば、きっと半年後には仙台の街が昨日までとは違った景色に見えるはずです。
- 貴重な体験ができます！
- 普段の生活では出会えない仲間とともに楽しく活動できます！参加することで視野が広がるので、気楽に参加することをおすすめします！
- 是非地方都市で新発見を

Q18 今後、本市が実施するまちづくりに関する事業について、参加申し込み時に記載いただいたメールアドレスへ参加者募集等の情報を送付させていただきたいと考えています。送付希望の有無をご回答ください。 ※必須



Q18 最後に、若者ラボに対するご意見・ご感想や、仙台市役所が行う「若者が活躍するまちづくり」に期待すること等があれば、自由にご記入ください。

(学生)

- 4年間ありがとうございました！
- もっと認知されて、より意欲的な人が集まる場になって欲しいです。

(社会人)

- 毎度参加させていただき、ありがとうございます。丸森に住んでいると学生を数名呼び込んでくるだけでも一苦労なので、毎年これだけの数の学生さんを巻き込み、まちづくりを考えられていることが素晴らしいと思っています。今後も若者にもスポットライトが当たる活動が継続されることを希望します。
- 若者が「関わって終わり」ではなく、その後もまちと関係を持ち続けられる導線があると、より価値のある事業になると感じました。今後も、若者の視点を活かした実験的な取り組みが広がっていくことを期待しています。パブリックコメント等で意見を集める仕組みをもう少し面白くしてくれることを期待しております！
- 半年間、貴重な機会をいただきありがとうございました。立場を超えたフラットな対話の場が、仙台の未来を創る大きな原動力になると実感しています。今後も、若者が「自分たちの声が街を変える」という実感を持ち続けられるよう、行政と若者が対等に、かつ本音でぶつかり合える場を継続・進化させてほしいと強く期待しています。
- 今後も、若者が活躍するまちづくりが実現するような事業を期待しています。引き続きよろしく願いいたします。